



MONTHLY

かわせみ通信

5月号

2021年5月

Vol.141

発行所



ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)

TEL.059-332-5122 (代) https://www.tokai-techno.co.jp

脱炭素社会は実現できるか! ~試される覚悟~

菅総理が所信表明演説において「2050年カーボンニュートラル (& 脱炭素社会) 宣言」をおこなってから半年が過ぎた。時間にして2分少々であったが、テレビなどメディアでも大きく報道され、差し迫った気候変動問題という脅威を改めて広く一般に印象づけた。宣言を企業はどのように捉えているかという、1月時点の調査結果で、温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいる企業は82.6%にのぼっている。特に大企業の目的は、CSR・SDGs・ESGなどで、自らの企業価値向上を見据え、脱炭素社会への移行をチャンスと捉えているようだ。しかしながら過去を振り返ると、2002年「バイオマスニッポン総合戦略」において、多額の補助金が注がれながらも、ほとんどの政策で、効果が発現していないと総括されたことがある。時代が違うと言えばそれまでだが、今回も目標達成を困難・できないとみる企業は6割を超えている。それでも、政府は技術開発・実証支援に10年間で2兆円の基金 (NEDO) を創設し、

目標を英仏のように法制化する。金額の多い少ないは別として、本気度が見てとれ、今回は待たなしの不返転の覚悟があるようだ。また環境省は、2050年までに二酸化炭素実質ゼロを目標と表明した自治体を「ゼロカーボンシティ」としている。首長も覚悟のうえで宣言したからには、パフォーマンスにならないよう本気度の見える化を望む。この本気度は政府や自治体だけでなく、当然に私たち消費者にも求められる。



人の固定概念を変えなければ未来はない

今現在、自分も含めどこか他人事な部分もあるかと思うが、近いうちに自分たちのライフスタイルの行動変容が必然となり、変革には痛みを伴うという覚悟と発想の転換が求められる。例えば、電気代の再生可能エネルギー賦課金は年々上昇し、標準的な家庭では年間1万円を超える負担額となった。さらに、カーボンプライシング (炭素税) の検討も本格化している。何かとお金がかかるが、間接的に再生可能エネルギーの普及や脱炭素の実現に貢献していることには間違いない。発想の転換といえば「捨てるという概念を捨てる」循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」が日本でもサービスが始まる、簡単にいうと牛乳配達の仕事だ。近い将来、ゴミという概念がなくなるかもしれない。最後に、地球温暖化対策もコロナ対策と同じで政府や他人任せにすることではなく、自分事として未来の子供たちのためにも、一個人としてできるところから積極的に関わっていきたいと思う。



教えて! かわせみ先生

環境対策におけるよく似たカタカナ用語は何が違うの?

最近、脱炭素化《地球温暖化の原因となっている炭素 (カーボン) の排出を防ぐために、化石燃料からの脱却を目指すこと》の取り組みに対してのカタカナ語が多く、よくわからなくなってきたよね。今さら聞けないということもあるので、ここでおさらいしてみよう。

語句	カーボンオフセット	カーボンニュートラル (カーボンゼロ/ゼロカーボン/ゼロエミッション)
語句の意味 (Wikipedia より)	人間の経済活動や生活などを通して「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業 (排出権購入) による削減活動によって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称である。	何かを生産したり、一連の人為的活動を行った際に、排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量である、という概念。昨秋の菅総理の就任挨拶で使われた「2050カーボンニュートラル宣言」により、脱炭素社会・再エネ社会等すべてを含んだ施策の「言葉」として使われる機会が多くなっている。
解釈 (環境省 HP より)	減らす努力をしても排出してしまう温室効果ガスの排出量を、他の場所での削減・吸収活動 (削減・吸収量) によりオフセット (埋め合わせ) しようという考え方で 排出量の【一部】を相殺すること	事業者等の事業活動等から排出される温室効果ガス排出総量の全てを他の場所での排出削減・吸収量でオフセット (埋め合わせ) する取組で 排出量の【すべて】を相殺すること

ココに技あり!

スタンディングデスク設置で場所と時間の有効活用

当社四日市分析センターの1階中央分析室には、分析材料の受付や分析値の入力等に利用する共用パソコンが置かれています。しかし、台数も少なく、使用に待ち時間が発生することも多々ありましたが、スペースが限られており増設したくてもできない状況でした。そこで、今注目のスタンディングデスクを新たに導入。椅子が必要ないため、奥行きが通常の2/3程度で済み、机の下には格納スペースもできました。また長時間作業を行わないため、一人あたりのパソコン専有時間も短縮されるという効果も。書類を置



くスペースは狭いものの、分析実務者にはなかなか好評です。高さの調節もできるので、狭いスペースで困りの方は検討されてはいかがでしょうか。

社員プチコラム

服部 智彦 (環境事業本部 四日市分析センター フィールドGr)

不要不急の外出が制限される中、皆様はどのようにお過ごしでしょうか? 私はスイーツが好きで、気になる店舗情報を得ると、新しい味を求め食べに出掛けていましたが、今は気軽に出掛けられず自粛しています。昨年からは感染リスクを低減する為に店舗へ行かず、インターネットで取り寄せてささやかに楽しんでいます。その中でお気に入り、さつまいもを煮詰めて作った希少な芋蜜と干し芋を使ったムースプリンになります。ムースの滑らかな食感と芋蜜の自然な甘さが印象的な一品です。ただ、体重が右肩がりに増えてしまうのが玉に瑕ですが…。



編集後記

ここ最近、SDGsもようやく読み方が浸透してきたと思えば、カーボン〇〇といったような用語が増えてきており、混乱しています。よはCO2をどう削減するかということですよね。個々でできることは限られていますので、脱炭素化に積極的に取り組んでいる企業の商品を購入することで私のオフセット活動に充てたいと思います。(みっちー)

